



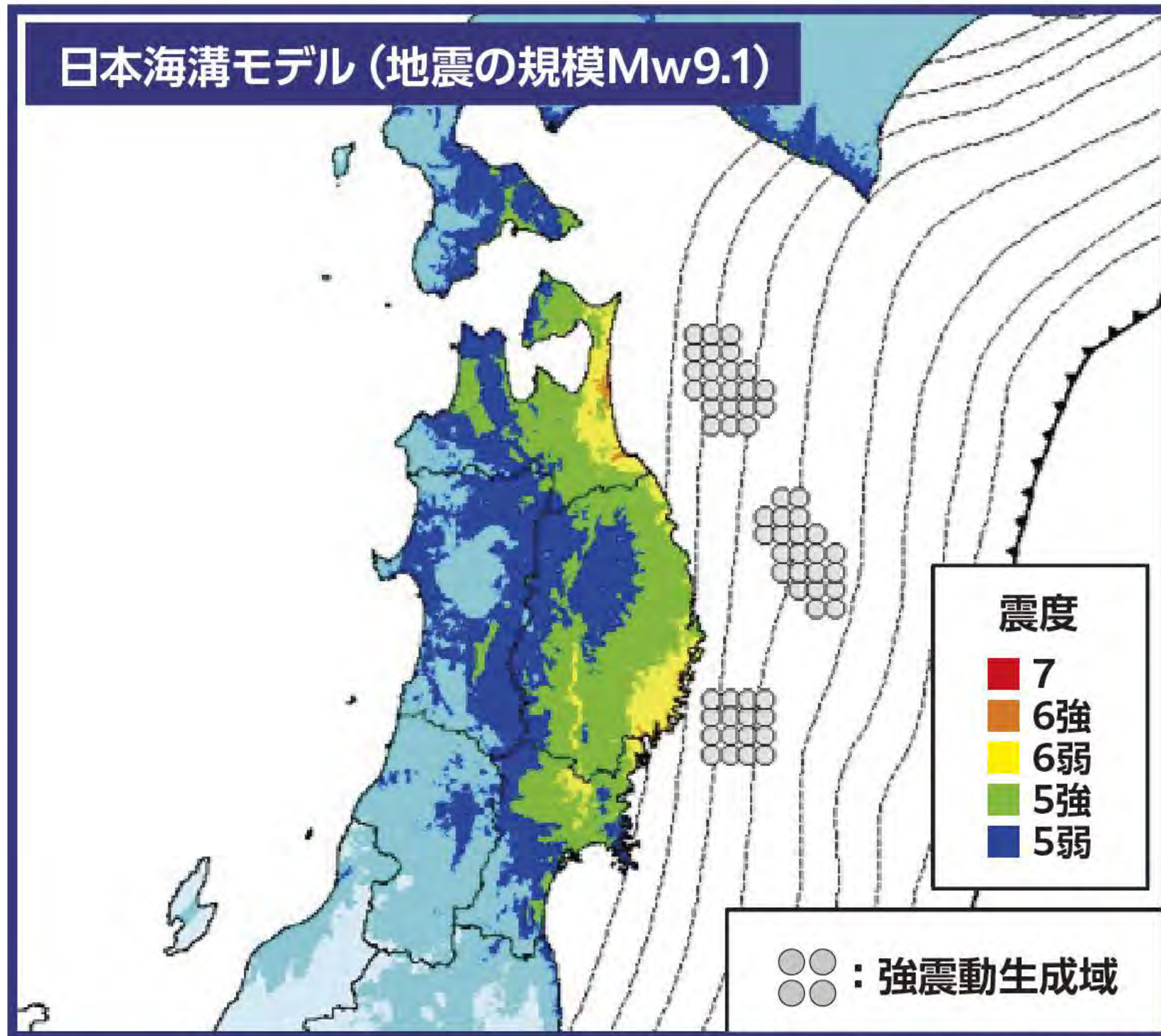
災害と備え

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震

日本海溝及び千島海溝沿いの領域では、2011年の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）、2003年の十勝沖地震、1896年の明治三陸地震や869年の貞観地震など、マグニチュード7～9の大小さまざまな規模の地震が多数発生しております。

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震は、30年以内に60%の確率で起こると予測されております。

東北地方では、日本海溝モデルの被害が大きいとされていることから、特徴を学び備えることが必要です。



▲「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会最終報告書より」

日本海溝
(三陸・日高沖)
モデル

- 岩手県からえりも岬にかけて津波高が最大クラスとなるモデル
- 青森県太平洋沿岸や岩手県南部で震度6強
- 三陸沿岸では宮古市で約30mの津波高

全壊・焼失棟数	約220千棟
死者数	約6千人～約199千人
負傷者数	約3.3千人～約22千人
津波被害に伴う要救助者数	約66千人～約69千人
低体温症要対処者数	約42千人
経済的被害額	約31兆円